

令和3年度農村振興関係交付金評価委員会の議事概要

○第1回評価委員会

1. 日 時:令和3年8月6日(金)10:00~10:30
2. 場 所:田原本町川東地域資源活用協議会(株式会社マルト)(奈良県磯城郡田原本町)
3. 出席者:
 - ・評価委員会委員
小田滋晃 公益財団法人ルイ・パストゥール医学研究センター 京都大学名誉教授
加藤恵里 滋賀県立大学環境科学部生物資源管理学科講師
伊原和彦 ETC教育旅行コンサルタント代表
 - ・評価委員会事務局
近畿農政局担当者4名
4. 議事要旨
 - 1)令和2年度近畿農政局農村振興関係交付金の評価について
令和2年度近畿農政局農村振興関係交付金評価対象地域、評価基準等を確認。
 - 2)委員長の選任
評価委員会設置規程第5条に基づき、委員の互選の結果、委員長に小田委員が選任された。
 - 3)今後の予定について
第2回評価委員会(現地調査)、第3回評価委員会(意見聴取)を行い、その後、評価の概要等をホームページにて公表することを確認。

○第2回評価委員会(現地調査)

1. 田原本町川東地域資源活用協議会(株式会社マルト)(奈良県磯城郡田原本町)
 - 1)日 時:令和3年8月6日(金)10:30~11:20
 - 2)場 所:蔵元料理マルト醤油
 - 3)出席者:
 - ・評価委員会委員
小田滋晃 公益財団法人ルイ・パストゥール医学研究センター 京都大学名誉教授
加藤恵里 滋賀県立大学環境科学部生物資源管理学科講師
伊原和彦 ETC教育旅行コンサルタント代表
 - ・事業実施主体
田原本町川東地域資源活用協議会 担当者(事務局等)
 - ・評価委員会事務局
近畿農政局担当者4名
 - 4)委員の主な意見
 - ・着地型の観光として施設の説明など見せ方が非常に良い取組であると感じた。さらに食へのつながり(広域での取組)や、提供する食事を地産地消とするなど徹底してやってほしい。
 - ・コロナが終息しないことを見越して、地域での感染症対策やガイドラインの作成などを行い、それをHPなどにも掲載していくことも必要と考える。(安心・安全の付加価値により商品も高値で販売することができる。)
 - ・今後の食の強みとして、①地域の食材に手を加えずにそのまま出す(例えばしぼりたての醤油など)②食材の変化を見せる(見せ方、地域特有の食べ方)の両面があると良い。など。

2. 特定非営利活動法人しが障害者就労支援センター 就労継続支援B型事業所「おもや」(滋賀県栗東市)

1) 日 時: 令和3年8月6日(金)13:15~15:00

2) 場 所: 就労継続支援B型事業所「おもや」

3) 出席者:

・評価委員会委員

小田滋晃 公益財団法人レイ・パストゥール医学研究センター 京都大学名誉教授

加藤恵里 滋賀県立大学環境科学部生物資源管理学科講師

伊原和彦 ETC教育旅行コンサルタント代表

・事業実施主体

特定非営利活動法人しが障害者就労支援センター 担当者(事務局等)

・評価委員会事務局

近畿農政局担当者4名

4) 委員の主な意見

・障害者と農業者が一緒になってお互いに助け合うことが重要である。

・障害者と農業者のマッチングが重要であり、そういう情報が農業者の方々へも共有できるように、地域の自治体とも連携して推進してもらえればもっとマッチングが広がると思う。

・大手の福祉施設では雇用率を上げることを考えるので、なかなか農業を取り入れるのは難しいと聞く。ここは農業だけで地元と繋がり、事業を推進している点が素晴らしいと感じた。など。

○第3回評価委員会

※コロナウイルス感染防止対策のため、ウェブ会議形式により委員会を開催。

1. 日時、場所、出席者

① 日 時: 令和3年9月3日(金)10:30~11:30

② 場 所: 近畿農政局第5会議室(ウェブ会議)

③ 出席者:

・評価委員会委員

小田滋晃 公益財団法人レイ・パストゥール医学研究センター 京都大学名誉教授

加藤恵里 滋賀県立大学環境科学部生物資源管理学科講師

伊原和彦 ETC教育旅行コンサルタント代表

・評価委員会事務局

近畿農政局担当者7名

2. 議事要旨

1) 第2回評価委員会(現地調査)の概要について

・第2回評価委員会(現地調査)の概要について確認。

2) 令和2年度農山漁村振興交付金の評価について

・①都市農村共生対流及び地域活性化対策、②地域活性化対策、③農泊推進対策及び④農福連携対策に係る評価結果について意見聴取。【別紙参照】

3) 低調と評価された団体への助言・指導について

・昨年度に低調と評価された地域に対する重点指導結果の報告。【別紙参照】

4) 評価委員の主な意見

○都市農村共生・対流及び地域活性化対策(平成28年度採択)

・【活動計画策定】の5地域について、「優良」(A)とする評価は妥当である。

○地域活性化対策(平成30年度、令和元年度採択)

・地域活性化対策の5地域のうち4地域について、「優良」(A)とする評価は妥当である。

残る1地域については、「空き家バンク利用登録者累計数」「マスコミでの取り扱い件数」の目標が達成されておらず低調であるため、「低調」(C)とする評価は妥当である。

・「低調」(C)と評価された1地域は、コロナ禍でも認知できるSNS等による発信を行うなど工夫をして目標達成に向けて活動を維持していただきたい。また、目標達成できている活動から空き家バンク利用登録へ上手く引き込めるように引き続き追求していただきたい。

○農泊推進対策(平成30年度、令和元年度採択、令和2年度採択)

・農泊推進対策の24地域について、「優良」(A)とする評価は妥当である。

・なお、農泊地域高度化促進事業の1地域については、全国的に受入家庭がコロナ感染を恐れ協議会から離れていく事例が多くあるので、受入家庭の確保とフォローに徹して欲しい。

○農福連携対策(平成30年度、令和元年度、令和2年度採択)

・農福連携対策の6地域について、「優良」(A)とする評価は妥当である。

○昨年度の重点指導結果について

・グランピングによる宿泊については、あくまでもコロナ禍における繋ぎであり、本来の農泊の取組を忘れずに、農泊をきちんと推進し、地元農業振興につなげてほしい。

5) 今後の予定について

・本日決定した評価内容については、委員長から近畿農政局長に対して報告を行っていただき、それを受けて農政局は9月末に評価の概要等をホームページにて公表することを確認。また、評価が低調な事業実施主体に対しては、重点的指導を実施することを確認。